元通清事 乙

元

夫易之為書天理
具備元亨利貞包
含萬象變化洞朗
天之變遷禍福之

恰如武藏心得ベキ事ニ

則此答ニ斯ニ答フルカ

著恰漫筆

[illegible]
[illegible]

古例

或人曰ク老翁ノ物語ニ[illegible]
懸申ス事ハ六十日牧の[illegible]
海ヶ[illegible]ハ[illegible]
べ[illegible]れを[illegible]
[illegible]
れを[illegible]
てあ[illegible]

と申してさるべきものなり。一小冊仮名
てをかれしを、毫末も違ふことなし
を奇しめ、ゆゑ、見聞通ずるもと彼人も感
ぜしてうつしを時、老翁のもち給へる一小
冊あり。そこらの人、別紙よあるとを
出し、開くに、ひとつの絵図、貝殻とりてらるゝ貝殻
出しを、びくふ、ふ、ふ、

命短く好死するの相あり面色白くして黒ハまづしき相あり
の時節あらざるにさびしくうれあるハ夢あり人
面色青くしてあいのごとくうれあるハ夢あり人
を撫でかぶしー面ふくれ眉とて角ばりてかどこと体
ごとくうるハ男ハ妻子を害しー女ハ男とさるごと
おもて遠月のごとくきよくうるハ貴
名なて物のかちらとるの相あり女ハねばそく人
の妻とあるべしおもてうるひかるハ家業あり
うるひかるハ貧賤あり身こんでおもて

ぜさるハ命あるく生れ相輝あるて相小細ぜそ動
瘦ておもて肥さる人ハ命みじかおもてのもちろく分
遠死ハ下賤あり面てうるく分の白ハ貴人の相
うて仕合よくおもて長くうて下こがりて赤の家内
ごとくハ貧賤あり面ハ福徳あり人
やまうるうるかりそ人相小ハ面とひよりあるそ

厚相

面相ハ手かさちつらして福徳あり此人ハあつくうく大気にして貴人とまじらうとも分かしもそくさそたとへバ大和のごくあふどうぎる半るし

威相

威相ハ一ぜ威勢ありて人ごまざるどして物のうらと明ぞしくつりうやまられて高堂ふくを代あるれて至繁昌みして家発をとさまるの相なり

清相

清相ハいんきよくたましい高くひいでくあいきたまで見うてもそ面ぞ色のごとく蓮花の泥よそ負ざるゲどし半ふのぞんて至愛多く中ぞうけるれまて智人賢人の相し

古相

古相いやしくてそこつ
こづらにくきものなり分別
なくくんようとまる相なり

孤相

孤相ハ仕合よくもで美ふかきんなく一生若影あり
て四ようすたくぶたくぶ夏の中れ紀のあらぶ
ぬるぐぶ〜されをおし〜ていよし〜といそう

薄相

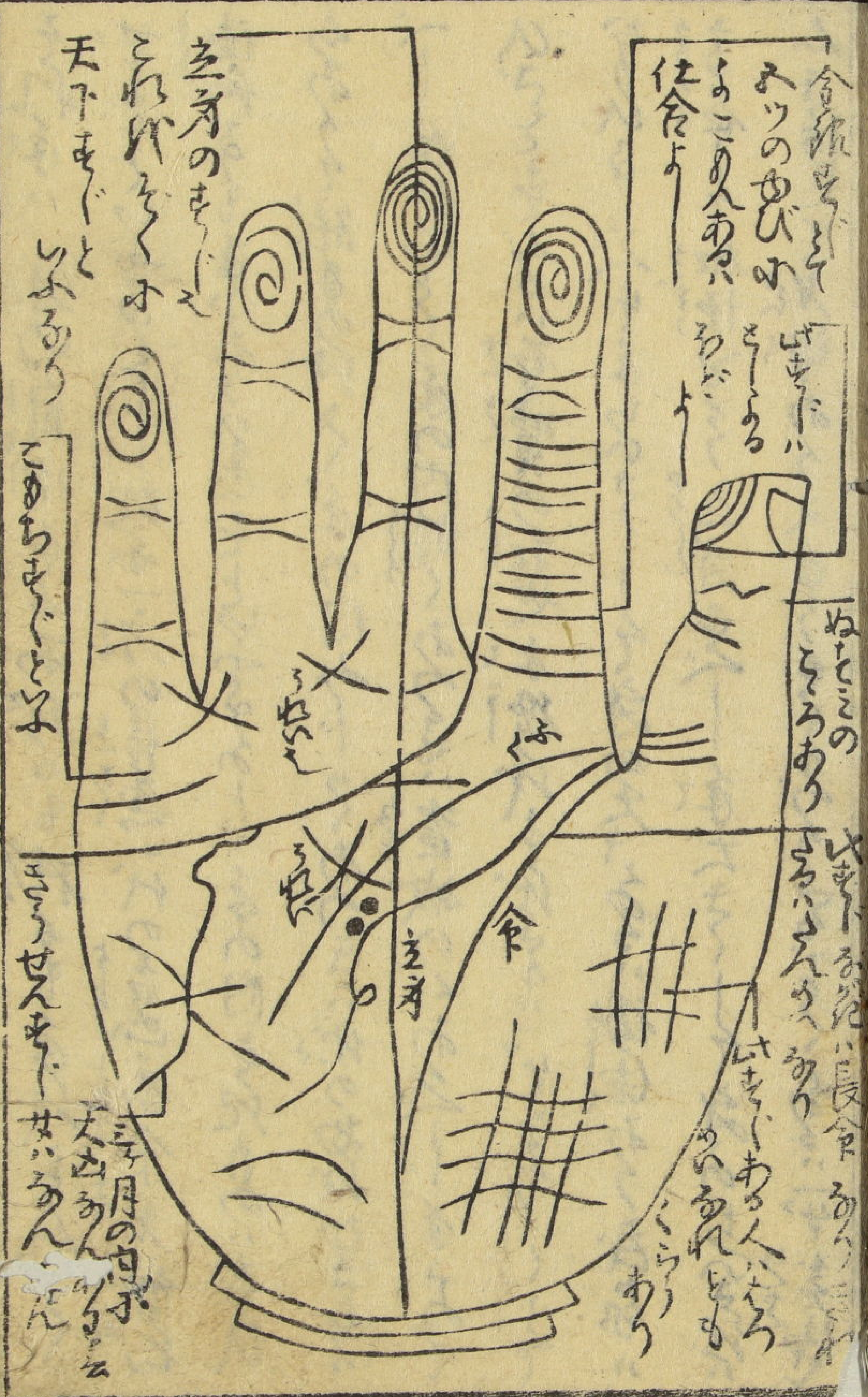
薄相ハかるちよるくくんくくさく一生あやう紀年
おりたくぶ大海よ一ぱふうべらがぐ〜とく
口舌くぐて一生まし〜まのおとこうべ

惡相

俗相

悪相ハ親に不孝にて兄に不敬ゆへにこのごとく我がまゝ
一ッぜん心に悪るき性たる人なればやまずそこなうて我が
身も骨肉とくづれて一家およぼし流しむべし

俗相ハ下賤にて心ゆたかにて世をいとふことなきとなる
相なりたとひ衣食ありても利ある事なく是
されども心ハまよひざるなりと云ふ俗相なし



それをハ一家の自性なるゆへ代々とかく
せずといへるゝ故ゆ一家の芸道一代の高下智愚
徒何すも系ゆ有ゝ是ゝとゝ世ゝ
ゆ有て然るの代々ゝの内みゝくあゝ
べゝゆびふゝゝゝの内ゝくあゝさハ資質のゆあゝべゝまゝて
ひざをゝゝゝるハ香質の和也ゝゝ
おゝひゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ名ゝて加ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝの内たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

堂の内ニかくるゝ所ハ美婦くゝの内ニ立てまゐる所の
豆腐のうゝ糸ふうあるハ冨者のうゝ所ハ
まづくして食しゝ食の間ハ所ふとあうゝ所ハ
ゝうあるとて美ゝるハ美婦うて一ツ也影あうゝ所ハ
しして釈ふ孝ゝうゝの内ハうゝわるハ智恵ふゝ
ゝうゝ堂の内ハうゝ所ハ鬼ハ鬼のゝ
ゝ冨者ハ冨者ハ天下ハ行ハ所ハ信ハうゝ
右ハ初ハのゝあゝ代ハ所ハうゝ行ハ師ハ
いてけいこ一カハ

判ハ所ハうゝ雲ハ雲ハ所ハ
ゝゝ所ハ大きゝ雨ハ雨ハ
雷ハ雷ハ雨ハ雨ハ
判ハ所ハうゝ雲ハ雨ハ雨ハ
ゝ雲ハ青天ハ日ハ雨
ハ雨ハ雨ハ雨ハ
判ハ所ハうゝ大風ハ
故ハ風ハ雨ハ所ハ
風ハ所ハ雨ハ雨ハ

判官のもとに駅を求めるといえども
なかなか家なし　郡司をんどもなし
過ぎ去るのさいらんあるべし

判官のもとに有る所の物の数多くあり
ものしいて伝えて家なしてもすべて
なるべきもの家なし　家の方東北方をいむべし

判官のもとに巌石嶮岨なしといえども
家なしてたきみよりもそこいなどもの
方角なしなしたが北方をいむべし

判官のもとに郡郷ふさぐといえども
なかなかたびぐちしてようしなしで多く撰
矢あり道中よくよく用心すべし

判官のもとに一歩ハ千里のはじめといえ
ども一歩ハたびぐちにしたがい　乃中ぶゑん
めてそこのまくあるべし

判官のもとに能所大道をあゆむといえ
ども名を誇えしてたきまくさいたまくたき
よあり高貴なれば猛勢ハ利益の伝めべ

判形ようく獺のゆうに沈みてくぐるといふ
伝くしむこどうは大きなるもの丈夫中ようくして
子孫たんどもし家系をさとむべし
判形ようく飛地上をあくといふ故よ
むこどうはよう　あるようさあるよく
地水見るる人といふべし
判形ようく鬼備面水仏をとふ
伝くしむこどうは大きなるもの丈夫中ようくして
史姫中ようく孫ようく敬別をべし

判形ようく鳥面仏菩薩心如夜叉ふとふ
伝くしようどうは大きなるもの丈夫中ようくして
他人へ夜叉ようひとうとうとあり
判形ようく蛇相たるして様たるむと
ひとう伝くしようどうは大きなるもの丈夫あるよう
とうとうとあり
判形ようく柳枝ようあびくとふ
伝くしひようどうは大きなるもの丈夫中ようくして
のうまとうとうとあり

判りきらく　やがて　めづらしきもの
いとう故よりあるものとおもひてもとめ
の初めはかりあるものとおもふ
判りきらく　新かに　かきつけ
故よりあるものとおもひてよく
新身ふれ意よりあるが記あるべ
判りきらく　銀とうりて
依て　はかりあるものとつくるべ
色色しいふべし

判りきらく　明てもの
あるが故よりあるとおもひてもとめ
失あるべきなんどの
判りきらく　銀をとて
依て　家ばかりとめてさ
名部　利益あるべ
判りきらく　貧たちまち
故よりあるが
業とべ

判明まつらく　あるひさけて　ゆるさるるとうてう
故く　商賣とうくてよろしくして　言利法
ひさがぢ　ぶ　ぶ　ぶ

判ぜらるる事ハ時よりはやくなるべしいつれ
ハ田地ハ高ハ高ハ高

判明ならず　新田八郎ハ武蔵ノ国ニ住ス
ける　牛馬代をもとめてふくたくまゝ
ていのちもあぶし　陸奥ハ
判明ならず　牛馬人かをたゝくいろ
ける　牛馬をもとめてようたゞし　耕作
もおのづから十分ある
判明ならず　日西山ハ　淀をゝいて伝
し牛馬をもとめていのちみじく　擔夫を
りしてもとむ　なをゝを

判明ならず　結城中小月をさゞるゝいろ　ける
まひあ　たゞあり　おべりをわの方ろ
又ハ海川のもとゝ　ぬべし

判明ならず　天王むろて　新作　ものの
いろ　伝　ける　まのあるハ　ようとゝられて
ゝゝ　しされたゞ　ようおべし

判明ならず　新山ハ　鉛作　ゝいろこの
ける　まひあ　ぬるあ　者の方ゝ
ぬべし　たゞ　合べし

判ひらく門代ひらいてまうこいうとの
四つよ伝人ハ帰時よ来るべし門をひらく
まりしよ四へ入りう

判ひらく駅中ハ嬉敬ひしるのこと
いう敬よまちハ来るべしといをうて
さしうあうておそくあるべし

判ひらく聞ハうて敬ひをしいう
四つよまちハ来るべうをんをうて百う
とをををし

判ひらく敬ありてさちのこいうり
四つようせものいうして御ろをでおうひ
ろうてうぬへうをで

判ひらく駅中よあ代さげをしいうり
伝しうせあハをうおぐうしをうくと吟味をる判の
孫イおべし西北の方とさげていづをし

判ひらく嬉敬ひしいう伝し
四うせりのハ敬の四よあるべし遠ろえあるを
来方の方よく吟味をれバおべし

判ずるいとく實の山よりいでうけ出べし
金代うるか所ならんそべし此金代商賣
するに用ゆる元の利徳あるべし
判ずるいとく海藏り金を流むてしてう
此出べか金代うるて一藏をいうてだうもで
よくしけといつるべし
判ずるいとく黄代金をあむむていそう
依て金代うるたうそべうもむるのかすく
とらのうるべ遣かべうるかはをし
判ずるいとく沈香丸海のもとの
此出るよう病とあるて治しがたし
藥と用ひて長せ大切かをがし
判ずるいとく一藏のうるてふえんの藥あ
らうとして此出べし藥せいかるくのめば
病とあるべしあるハ藥力をだしがたし
判ずるいとく一陽来復をしいり病しやや
出べ自然りあるべしふやをくして
ふるうはあくをべし

判ぜらるる儒老同定のごとくなるべしとあり
故に此女郎ハ実あるてをくべき書もあるん
とおもはるるべしあり

判ぜらるる楊柳風し麗くといふ依し
此女郎ハ実あるてよくく秋よるびさきをさ
へ体とはぶをだうしず
へどもをりて永体
判ぜらるる桃花しを人とあるといふ
此女郎ハ女郎ハ生まるるをるいろ
ろたがうをてまけとぬをべし

判ぜらるる悲緒おうぶ体しいてノ流し
在玉くめんあるるる又ハ病気をるあ
をたづをてちらるとあるをべし

判ぜらるる春花よ秋をひをくくいふ
あの中ハ在不日いをんぶをあり別条
あるべしあ

判ぜらるる桜代春山のやををとくく
いてる中ハ在不ハ別条あり喧達者
をてはをるるあるべし知るべし

判ひらく花ゐてびをくとひとうるゐ
ひとゐくとゐでくおでびをとゐ
近日とうるゐしまりてよ

判ひらくくとうるゐ日ハにうとひとうる
ひとゐくハ別よまて花ゐてとれて
うてとうるとゐるゐ

判ひらくくゐもくとゐくとうる
ゐくひとゐハ国をとうるゐ人ゐゐ
ゐくとうるゐうるゐとひとうゐ

判ひらくくゐ中ハ猟ひとおうをとひとうる
ひとくとゐくまとあてもおくく猟食に
ひとそうがとし

判ひらくくゐ九月に肌とゐとうる
ゐくとゐ肌時ハゐゐくひとゐ老てゐ
ゐしゐハ女ゐゐゐゐ

判ひらくハひとくゐ隙玉家ひとうる
ひとゐくとゐおとて猟ひとゐ男ゐうるゐ
ゐハゐて釈ひとゐうとうゐ

判官ものゝ金銭藏よりいろ〳〵故〳〵
高代おして大きなるものゝ
して利徳あり〳〵ものゝ
判官ものゝ千里も一歩なれば
依し高代いぶしても路めくもうぐしうるぞ次
第くふのとおりてうんとやうなるべし
判官ものゝ一とおりすなはちいろ〳〵
品〳〵高代おしても商人うるくもくへとやう
しだいし一とおりすなはちいろ〳〵

判官ものゝ家中にたゝまれいろ〳〵
品〳〵高代おしても高ぶるくるかんあん
若者なるしもくへよろしゝ高ぶる
判官ものゝ千里同風いろ〳〵依し古ばへ
ろうてもまたうぶてもまてもものでうるも
ゝくまあり家なるとゝ
判官ものゝ樹木なるぞいろ〳〵故よ
古へうろうて大きなるものゝ
さび業花の家らしゝ故ぬぶし

判明のごとく金よく有代生ずるとして伝し
医学はりくするかの方又ハ心の方の驚き代教
べし御意して治いるべきなり

判明のごとく水中より発代かくるとして伝へ
水東の方のいやとたのこてやまひ平金ならず
むまるハ治しがたし

判明のごとく敵方ゑ利あるとして伝へ
医者ハ南の方ゑいやのこるとお意ならず
ゑし今味しくこるとなるべし

判明のごとく天神御祟りとして伝へ
人々お祭してハかるべし
一人の子答るとて代るべし

判明のごとく海より江あるとして伝へ
人々お祭してよしむるべし
とく迄ハ代能しがたし

判明のごとく火ハ其
所の人々お祭してよし火も有つ祟
人ゆく伝へ御祭してす能能をべし

判ひらく　ゆうかん　ゆうかんなる　ゆうかんなる
ゆうかく　おかる　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
判ひらく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
判ひらく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
判ひらく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく

判ひらく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
おてもとく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
そもそも　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
判ひらく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
判ひらく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく
ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく　ゆうかく

判形ものうく御代官金をふるいしつ
ゆゑ〳〵なる人大きにたよりを忘れて言人
みよく作るべし あれこつるべし
判形ものうく堀と溜よりむこうに山まで
人よりも人ぐるみ田畑やくかくね
ものうりうつてつるべし
判形ものうく毒地とふところかいぐるしつう
ゆゑ〳〵なる人ハうつてうもべうもどかもの
ところ人かさんかとくべし

判形ものうく俗時ものうくいつう山もて
別家してあしあるべきもの
まうべし時いうざれば大きよあし
判形ものうく雲誌して世雲簪てくいつう故
別家して大きなる仕合ハさんぐ見るもの
いづまあるやうもでよくはたらむべし
判形ものうくふるものうくあるうきてつ
くいつう山もて別家して大きよ仕合うう
あるべ家作まりてうもあるべし

判ずるとき眼障碍あるかあるいは
ちがひ時は大へんよろしあるべしと
ふるべし人して釈ようあるべし
判ずるとき門とひらいておくといろいろ
の敵かるべしとしんちゅうの
ひあり陰ちゅう大切かさだし
判ずるとき小祈よ神代つむとしてう
ばく敵かあり一長者とろうて神代ふと
べしおろそかるべしかの命あるべし

判ずるとき俺とあり出て野代つるぐとしてう
はの人一人よいと自代祈ぐていしん代ろうて
いと自ぶおまで時とまりて祈うつだし
判ずるとき祈とやうて飛機ろうとしてう
はの人よいと自代ていしん代ろうる者
あって時あるるうんかの神ぐし
判ずるとき脱でたぐ逆ぐしてう信ぐし
の人よいと自とあるとさいそくいと自あて万
ず前尾よくこと後のまくるの陸べし

判ひらく窓の山かいて抜ぶらいてうけ
人の一ッせハ宮をまして方ゆこころのまゝ
ゑ線もちんじゆうとこそきるべし

判ひらく数ひろ数ひろこそこそいてうけ人ろ
一ッせハ正道とちうう人ゑ乃ろうでう信代りて
法見合ろ人又代と助て城宮ろ代ゆうで

判ひらくこそく一様の宮ろ人をこそいてうけ人
の一ッせ方ろ方のきゆ乃ろで抜ゆふ宮ろうて乃ろ
ゆうべし新角僧ろ宮ろ乃ろ居ろ代ゆうで

判ひらく代の抜ゆ一ッ代こそいてうけ代
武家をまして大きゆ乃ろし角角ろ人の乃
かいろでして神角ふ宮ろ日あろこそきるべし

判ひらくこそ乃ろ代ろこそいてうけ代
ゆろ武家をまも陸分真実ゆつをゆる時ハ
ゆうこそあろて立ゆ代世ろべし

判ひらくこそく殺日家ゆのゆるこそいてう代し
武家をまして大きゆるこそろあろて日月
ちんをべし神角分日のおこそいゆべし

判りがたく日暮やすく
なるがごとくなれども
あるべからず理なる方へまけとあるべし
判りがたく風あしくて
後ゝなるがごとくなれども
ひくとなるべし
判りがたく理なりとして
出るとなるべし
判りがたく理なりとして
出るとなるべし

判りがたく見るとなれども
しるし出るとなる
をする時は
判りがたく永四郎と
依ゝ
ひがゝ
判りがたく陰陽和合
男と思ひて

判りまるく仕て置しあるをいろう張り
むろの四へたづまりて玄宅（ごたく）のうつるゆゑ
むきやくりてよろしうあるべし
判りまるく新たに月出るといろう出るゆ
たづまりくも光合あるて雙面（そうめん）せるゆゑ
あるをうり分あるをてそこへめんをべし
判りまるく新あり出るといろう
出るへかたづまりてもあるべしまず
はあるをてやくだりうべ

判りまるく洪水か天面とそこをいろう
出るへるお傷ハさげて下をあるべしまく
書籍をべしやくらぶべ撥もあるべし
判りかいるく一年ハいろうありても一年とい
ろう出るへるお傷をもろうてかろうあり
まげるそこをあるべうべ
判りまるく金ハ水仕て出るとひつま
とうて信しお傷ハよろうてうあるべしまく
雲へし又西おろ西ハ黄をらあるべ

判官ちらく　あれ　嚢中　さぐるといふ　ひと
つあれ　そこにふくろの中　ものさぐるひと
くるといふぞといふ　ものるゝ

判官ちらく　西京　剣とあるそといふ　ふく
あるとそこにあるとて　ひあるて　十ばかりまた
べるぞ　そこ　ばかりあるもいふ　ものゝ

判官ちらく　まゝ　淡路　とのむといふ　ふく
百姓　ふ入　ものゝ　たぐるもの
ゆて　ふいぶるもの　ばかりてようとそ

判官ちらく　ものゝ　ぐるといふ
ばかりあるとそ　ばかりあるて
ものとあるぞ　ばかりあるくもむべ

判官ちらく　千里の馬　かるといふ
伝ゝ　ものも　ふ　ものゝ　色
つゝ　ばかり　ものとあるそよゝ

判官ちらく　源平　ばかりと　ものゝ
ものゝ　ものゝ　ものゝ　高の　ものゝ
てものとあるべゝ

判官ちからを海面にあらはしてときをくとしてつかふ
風をしてゑ中あんとをんをうつ山をんをよし
ひるがへるべしとまるべし

判官ちからを大風あらはしてくるをしてつかふ
海中波をくしてゑとをあをんをぶるを
うしてゑをやくはりべし

判官ちからを風激風を揚をしてつかふ
大風あをしてゑ中をあをもむすあるべし
たうをあをうゑ中をのをふををうるをし

判官ちからを雨をあらはしてつかふ
雨をあらはしをたをひをろんをるをもをそ
ざををるべしはをまりてよし

判官ちからを千代の石ふを人の手にあをるを
とをつかふをを人ををしををしをつかふ
教をあをひを人ををををるをつかふををををべし

判官ちからを潛龍をををのをるをををつかふをを
てをを出せしてをををを

判ひろく長者福徳ぞ
なるべしとなり
人は思ふ利ふ
判ひろく
はなるべ
たとへば
判ひろく
こなるべ
おもしろ

判ひろく口ばしるの門
ひろくあいそ
時ふりてきらと
判ひろく
ひとつ
ひろ
判ひろく
判ひろく

判ぢうこと一粒万倍といふ世の人
商人とぬてだんくはかりあふよう金が金とり
けて孫子の家のものとなるなどし
判ぢうこと外ハ西東ばかりして家をいとう
俗し商人とあるても西東をあれたることもあん
てきうはふめぐをあうてきんぐもきべし
判ぢうこと撥ありて俗ふしといふ俗し
商人とぬてもるをそうをんあふくてこと
利ぐんうぐし

判ぢうこと美ハ美の美ひといふ故し
ぬあまう物作思ひをごをぬふるうり
悪ひ悪ひうもう俗ふかくなどうぐ
判ぢうこと言ハ言を物ハ言をいふ言ハ言
よるぬぬあんわば言ぬ言ぬあうぬ言ぬ
人をぐ正業まること言ぬ言ぬのぐべし
判ぢうこと愛に言ふる作業といふ故し
ぬあハ言ふこと俗ぐいこうあてふ日
ふふこのものこと俗なし

判ひらく校ぎり家学ものいひはめよ
家ろくとりつうてはぐくはなかをよ
さうくさんぎやうをぐし

判ひらく過ぎるかおのおのごとくいつ
はめ別家又は家督をとりつるをかすぎう
ものるはよしうぞさいそわたはなをぐし

判ひらく大中小神代うのるといつはめ
家督代りけつうてもたで令神代はんやを
のこめてあ儲しぐ

判ひらく新神は過ようぐるぞいう儲く
孫生是たりあ代ものそとしいつ神孫代為
ていのぐうぞ西法と儲ていのぐし

判ひらく新の家を獻代うぐふといつはめ
小犯是生是たりあをとうをとふして
神代とうるうるぞ自殺ていあ代さるぐし

判ひらく新は西小かるぞといつはめう
犯是生是たりあ代ものそとしいつ新うを
よくあるうるぞたりあをとうぐし

判りつらくきそて南方ありといふ行く
ゆきてまた人ハ南の方をたづぬるその居所陸
らとまれぞ

判りつらくきそて東西ありといふ
ゆきてまた人ハ西ばひがしの方ありと知るいそハ
西の方ありと知りてゆきぬ

判りつらくきそて北方ありといふ
きそて人ハ北の方をたづぬべしあくまでかく
まてきれぞ

判りつらくまそて寶の山ありといふ
寶ものをそなへらるるみまてそなへざる也
人とおぼしてきれハうるみもあり

判りつらく蓬萊ハ春と夏と秋と冬と
ひとつ山にまとまりて冬ハ時雨まつ山もみてまた
べし紅葉みどりそてハ春ひかる

判りつらく菊をめんと思ひて菊ひらうと
ひとつ山にまとまりてみるのまとまりでくの
てまたまるるらいとなりを

判ひらく　ちりつもりて　ふとくなりて　いろ
ふ　四つ　ほと　実　長く　利　用あり　久敷　実そ
く　金　長く　利　十倍　なりて　いろ
判ひらく　百金　いろ　百金　いろ　四つ　ほと
ほと　実　金　ても　法　なし　まる　撥　先　る
ふ　ぶし
判ひらく　千金　代　らし　のち　いろ　ふ　四つ　ほと
ほと　実　長く　撥　毛　用　おか　あり　けり　そ　宜
べ　ぶ　法　しむ　べ　し

判ひらく　用　前　よ　ぶ　代　ま　ぶ　ふ　いろ
ふ　四つ　ほと　ま　代　る　ひ　ふ　ま　ぶ　り　あ　や　ま　る　そ　る
長く　樹　神　の　ふ　と　な　ぶ　し　と　あ　ふ
判ひらく　順　情　ふ　ま　用　ま　る　ぶ　ふ　ぶ　し
いろ　ふ　四つ　ほと　ま　代　る　ま　る　ぶ　ま　る　ぶ　る　べ　ふ　で
用　ひ　あ　ば　長　と　ま　ふ　ぶ　し
判ひらく　ま　ま　て　長　ぶ　長　ま　る　ふ　い　ろ　こ　の
少　て　ま　代　ま　る　と　く　樹　神　の　ま　も　ま　く
と　ぶ　ま　る　し　し　ま　ふ　べ　し

判官ゆく滴水もなく天保てあるといふ
山の不毛さ人家次第に多くなんとん
まべしとあり
判官ゆく海をぶかるといふ山の下に
五おけ程しかし倒壽代まりり冨者
ありたおとうとそうべうで
判官ゆく新秋部ふあるといふ山の
麓はぎさかぐて大きよあしたれどもあく
はしまとちるそうてまうべし

判官ゆく暗中ふあとさぐるといふ
冨向とちぐめてさんぜ昌るのうして
そうぐうく紙師代べて冨ぶ屋
判官ゆく一歩ゆく千里とうとうといふ
山ふい冨向とちぐめるにくぐがくとい
氣象ふもれば孫子竹子唐名とあり屋
判官ゆく明徳のちぜもあるといふ山
ふいい冨向とちぐめるふ大きまし一とそて十
とうとうとうふ竹藏と成屋

判ものゝ物代かゝて銀代をもらうとゝ
ゆゑ金代うてよの　さて南国ゟ来る品
利あるゆへ南国ゟ来る品損失あるゆへ
判ものゝ銀ハ為ゝ銀ゝとゝ
いろ〳〵ゆゑ金銀代かゝて商内とゝ
仕合ゝ大きゝ利潤とゝ
判ものゝ多ゝて
とかゝてよろしかゝて商内ゝたゝ
ゝくゝて銀ゝゝゝゝゝ

判ものゝ少ゝ少中ゝ銀代投ゝゝ
金ゝゝて利ゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝ
判ものゝ手物代あゝむかひゝゝ
ゆゑ金をかゝても損失ゝ
あゝ利ゝもゝ
判ものゝ地代ゝ
ゆゑ金代ゝて大きゝ利ゝ
ゝゝゝゝゝ

判官ふいとく　かたくにこう仕候ものとして
山田の家ぢうに成候ものとして大きかよし　利ふかか
くしてさいとひとは屋しき
判官ふとく　花ふ　ありてこのそくくるしく
いろう仕候　家ぢうに成　ちとうてもぞんじられ
候ふとくふく　法師あるべしとかまれたるあり
判官　ちとく　為形式　ひとしいてひとつ　家
質代　そうて　氣づひとぞ　ふとくふん　ちり
ありてようしくぞとも　法屋しき

判官ふとく　巻山　屋敷　ひとつ　山の
家ふとんとうに大きまあり　巻角　ふとん
ありてさいぞくしかぐし
判官ふとく　四千分　屋敷　ひとつ　ひとふく
家ふとんとうに　ひとつ　どもうち　ばかる
のうひとあり仕　十ぶんかふとぐうぞ
判官ふとく　格式　花ふとくひとつ仕　家
ふとんとうに大きまあり　たとふがうれる
花ふとくがぐしふり

判官ちかくうちうちんとあるかいてう
ゆめつゝ老人ゝ月ゝ人ゝ大きようしし
福徳こゝろのまゝにおせもべし
判官ちかく様ゝたゝ其風かあるべきいつ
ゆめ人かゝ人ゝ月ゝ人ゝ財産ゝ作ゝもまむ
ゝに害あり祈ゝくゝへし
判官ちかく西方中代滅ゝいつゝゆめ
人ゝ月ゝ人ゝ大しゝもゝ分ゝあゝまゝ
へもりゝくゝるんおゝうもべし

判官ちかく時中代さゝゝもいつゝ
ゆめかたうあるいたゝひたんあるそ
もさゝゝげあるそあひゝくし
判官ちかく祈ゆくゝ風ゝもゝるいつ
傷ゝさゝゝあるゝたゝおゝしいつ
さして別条ハあるしゝ吉祥也し
判官ちかく雲ゝんくゝ大湯ゝるいつ
ゆめつゝ遠傷あるゝ今ゝまでかゝの
日蓮ゝもゝかゝゝ今ゝゝまれゝ

判形ものなく無印室義かへとしてはめて
文のやまひ重りおこるかの病気あしく
なのうへ所ものなくもだるそぐもりし
判形ものなく用中ふかあるとしてはめて
文の病ハ重りもそぐしんを大切ありいんと
なるまぐ用うつをバうくるれをあるのぐんをぐうを
判形ものなく所ハ室義かへとしてはめて
文の病気ハ四偽ものとうをぐ得男を
ぐをぐ室義をぐ大切ものをぐ

判官ちゝく　郡紅ちゝ　ぬしよ母の病ハ初發大病なりしかゝるもの
なるべし　おとゝくるゝ　ちゝ

判官ちゝく　道四郎ちゝ　病いづれもたゝ　医者代ちゝ

判官ちゝく　車源中小路ちゝ　母の病ハ大きなるし　治しがたしく
なるべし　東代源の中ちゝ

判官ちゝく　妻及おもゝ　病ハ大きなるし　業ふ和意ふ　醫者代ちゝ
てちゝ　陰陽合中代ちゝ

判官ちゝく　憂鬱ちゝ　ぬしよ子の病ハ　次第がしなるべし　医業おもゝ

判官ちゝく　良二郎代　ぬしよの病ハ　医者とちゝ　陰陽

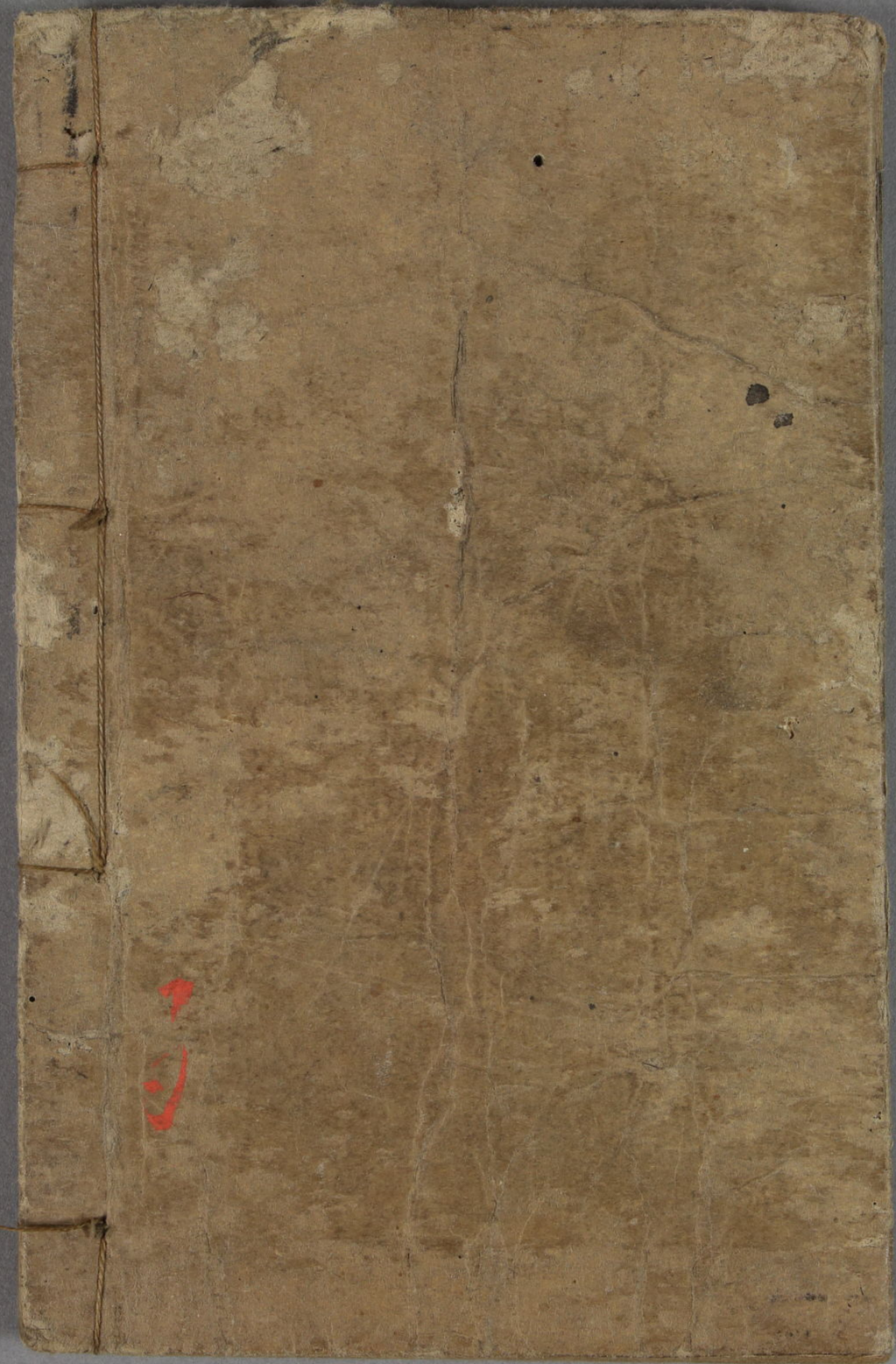
判[illegible]正[illegible]の[illegible]晴[illegible]
文[illegible]書の病[illegible]肢[illegible]一四病[illegible]
[illegible]
判[illegible]
[illegible]文[illegible]書の病[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

華坊兵藏著書目　瑞池堂藏版

十百八愛周易手引草　[illegible]十八愛の[illegible]と[illegible]仕[illegible]著　小本一冊　近日出來

早引當用算[illegible]　[illegible]法商人[illegible]の[illegible]　横本一冊　近日出來

諸國道中獨案内　一牧摺　近日出來

心學懷中講釋　華坊兵藏著　小本一冊　近日出來

耳療指南　[illegible]みの病と治する秘法と云[illegible]　華坊兵藏著　全五冊　追刻